

平成29年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技大会展望

文： 中島 洋己

((一社)静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭)

平成29年度**東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選**が平成30年1月20日に駿河総合高校体育館他で開幕する。今年から大会のレギュレーションが大きく変わり、昨年までは完全トーナメント制に加えて、3位決定戦が東海新人出場決定戦と銘打たれ行われていたが、今年から県総体同様4つのブロックに分けてトーナメント戦を行い、そのブロック優勝4チームが**決勝リーグ**に挑む形式となった。さらには今まで行われてこなかった**5位決定トーナメント**も行われるようになり、その結果も来年度の県総体シード順の参考資料となるだけに今まで以上に熾烈な戦いが予想される。ブロック決勝は21日に男子は飛龍高校、女子は三島南高校で、そして27日、28日に**草薙このはなアリーナ**で決勝リーグおよび5位決定トーナメント(27日のみ。7位決定戦は行わない)が行われ、男女3位までが2月10日、11日に今夏の愛知インターハイ・メイン会場となる一宮総合体育館、パークアリーナ小牧で開催される**東海高校新人大会**への出場権を獲得する。また1月28日13時からは平成29年度(一社)静岡県バスケットボール協会高校部優秀選手男女24名の表彰式も合わせて行われる。

今大会では先月のウィンターカップ2017でも大活躍した飛龍・関屋心、そしてU-16女子日本代表に選ばれアジア大会にも出場、ウィンターでも経験値を積み重ねた浜松開誠館・鈴木侑がアジア・全国の檜舞台を経験し、県内に凱旋する大会となる。多くの熱い戦いを期待したい。

【男子】

優勝候補最右翼はやはりウィンターカップベスト8・**飛龍**。年末のウィンターカップでは高知中央、実践学園、帝京長岡という名だたる強豪校と激戦を繰り広げ堂々のベスト8。今大会も優勝候補の筆頭として満を持しての登場となる。エース・**関屋心**は攻撃の起点となり積極的なドライブを展開していく。ウィンター3回戦の実践学園戦では26得点、相手に合わせることなく自らタイミングをずらしながら持ち前の力強いフィジカルを生かしてシュートに持ち込むプレーが魅力。華のある選手なので、観客にも夢を与えるようなプレーを見せてチームを勝利に導いてほしい。関屋同様、昨年愛媛国体で活躍した**杉山裕介**は絶妙なタイミングで飛び込むリバウンドでチームの危機を救い、守備面ではゴール下の砦として持ち味を発揮する。この2人が今年の飛龍を牽引していくことは間違いない。他のプレーヤーに目を移せば新主将に選ばれた**西尾昂也**は抜群のゲームコントロール能力をもち、リーダーシップにたけ、決定力のある3Pを誇る。シューターとしては2年生の**山村祥太郎**や**原田未央**を擁し、インサイドにはウィンター2回戦・高知中央戦で203cm・ナイジェリアからの留学生にマッチアップし、体を寄せて相手の攻撃を封じ、攻撃面でも器用なドライブを見せてチーム最多の16得点を挙げた**リュウヤハオ**が待ち構える。足を使ってパスを散らすバスケットで磐石な試合運

びを続ける王者に今大会も死角はないだろう。

飛龍に続くのはウィンター県予選準優勝・中部新人覇者の藤枝明誠とウィンター県予選3位・西部新人覇者の浜松開誠館。

藤枝明誠はウィンター県予選決勝戦でゾーンディフェンスを効果的に使って飛龍に食い下がったがあと一步で涙を呑んだ。ゲームキャプテンを務める**中村和磨**は広い視野を持ち、シュートセレクションの見極めが天才的で放たれるシュートの成功率が非常に高いプレイヤーである。ドライブにも切れ味がありオールマイティーな司令塔である。中部新人決勝・静岡学園戦でも3P5本を含む27得点を挙げ、貴重なスコアラーとしてチームを支えている。新主将・中盤を任されている**野口嶺**はルーズボールやリバウンドなどの球際の強さが目立つがそれ以上に選手と監督とのパイプ役を務め、双方からの信頼も厚く、チームをまとめる存在でもある。アウトサイドに目を移すと明誠のお家芸とも言える高さでの勝負は他校の追従を許さない。インサイドに待ち構えるのは206cm・ピックアップアンドロールからのシュートを得意とするマリ人留学生・**ドゥクレセコウ**と、類まれなジャンプ力を生かし必死にリバウンドを取りにいく192cm・**山下輝夫**。もう一人のマリ人留学生・**オマールティジャンチュヌ**は怪我の影響で中部新人は出場機会がなかったが県新人では出場する可能性も十分あり、どのチームも「高さ対策」には苦勞するであろう。その高さを十分に生かし、4年ぶりの優勝を勝ち取りたい。

浜松開誠館は2年連続西部新人を制した。決勝では強豪・浜松学院に競り勝ち連覇に華を添えた。昨年主力としてチームを支えた田中、神田が最上級生となりさらにチームを引っ張っていく。**田中勇樹**は度胸よく放たれる高確率の3Pが魅力、**神田誠仁**は闘志あふれるプレーを信条に体を張った力強いディフェンスでチームの士気を高めていく得点源の選手である。また1年生にも逸材が多く、188cm・**田中駿**とフォワード・**今井田大輝**はウィンター県予選準決勝・飛龍戦でスタメン出場、特に今井田はアグレッシブなプレーで6得点を記録、大舞台で貴重な戦力として貢献した。さらに西部新人決勝でも勝利の立役者となりチームに不可欠な戦力へと成長した。開誠館のバスケットは激しいプレスからの速攻が特徴、常に5人が連動し人もボールも常に動く機動的なバスケットを展開し、まずは2年連続の東海新人出場、そして一気に初優勝を狙う。

上記3強を追うのが昨年度本大会準優勝、福島インターハイにも出場した浜松学院と東部部新人覇者・三島北。この2チームはブロック決勝での対戦が予想される。今大会屈指の好カード、激戦必至である。

浜松学院は西部新人決勝で浜松開誠館に惜しくも敗れ西部2位での出場となり、雪辱を期する大会となる。ダシルバ、石川という核となってきた主力が抜け例年以上に厳しい戦いが予想されるが、ウィンター県予選準決勝・藤枝明誠戦で途中出場ながら切れ味抜群のドライブで21得点を記録し、リバウンドにも活路を見出す**葉山大誠**や同じく準決勝でスタメン出場した**新村健心**の2年生大黒柱に加え、新司令塔の**中村健生**やインサイド要員として控える195cm・**陳相廷**、185cm**于振**

華などの1年生が活躍すれば2年ぶりの優勝も十分現実味を帯びてくる。

公立の雄・三島北は東部新人決勝では伊豆中央との公立高校対決を制し、昨年11月の東部選手権に続く優勝を飾った。創部14年目での初優勝は、今年で31回を数える東部新人で公立高校が初めて優勝を手にした快挙でもある。夏のトップアスリート事業にも参加し、司令塔としては比較的長身のユーティリティープレイヤー・末永悠士を始め、インサイドには180cm末永昂士、181cm長島駿、そして186cmの渡邊慎矢など大型プレイヤーが揃っており、優勝争いを大きく左右する「台風の目」となる存在である。特に渡邊のリバウンド支配率は驚異的でまさに「タフネス」の一語に尽きる。非常にまとまりのあるチームなだけに一丸となつての頑張りを期待したい。まずは平成24年度の浜松西以来5年ぶりとなる公立高校としての東海新人出場を目指していきたい。

中部新人準優勝の静岡学園も侮れない。どの大会でも確実に県ベスト8まで勝ち進むがなかなかその先の大きな壁を打ち破れずにいる。今大会では何としてでも決勝リーグへ駒を進め、東海も制した平成11年度以来18年ぶりの東海新人出場を果たしたい。そのためには新チームの主将・鈴木一輝の多彩なパスワーク、そして「静岡県の至宝」である205cm・市川真人の活躍が不可欠である。特に市川は中部総体決勝・藤枝明誠戦では5連続得点を含む20得点を記録、成長著しいところを見せてくれた。まだまだ成長過程であることを考慮しながらも彼の活躍に期待せずにはられない。飛龍とのブロック決勝での挑戦権を賭けて2回戦で対戦が予想される西部3位・浜松工業との戦いが一つの大きな山場となる。

その他、各地区大会上位に入った浜松工業、浜松西、静岡、静岡商業、伊豆中央、星陵、沼津中央なども虎視眈々と東海新人出場を狙っている。各チームとも山村吏玖、大滝龍二(浜松工業)、玉木健太郎、高橋駿(浜松西)、加藤由弘、松田光平(静岡)、五十嵐貴大(静岡商業)、井村飛美希、福本海成(伊豆中央)、須藤士恩(星陵)、加藤麗央(沼津中央)などウインター県予選でも活躍した一級品の選手を擁しており、今大会ではその後の成長を見られるのも楽しみである。

最後に今大会初出場となる2チームを紹介したい。まずは今年度から男女共学となった浜松聖星が堂々の初出場を決めた。創部初年度での県新人出場は平成24年度の浜松開誠館以来5年ぶりとなる。1年生のみのフレッシュなメンバーでまずは県大会の雰囲気の大いに満喫して欲しい。そしてもう1校は小山。浜松聖星とは対照的に、こちらは苦節・創部33年目にして初の県新人出場を決めた。両チームとも出場することだけに満足せずに勝利目指して悔いのない戦いを繰り広げて欲しいと思っている。

【女子】

こちらウインター県予選を制した**浜松開誠館**が優勝候補の筆頭に挙げられる。前回大会の覇者、現在県内大会6連覇中、そして県内試合35連勝中と記録をあげれば枚挙に暇はないが、その開誠館も年末のウインターは聖和学園相手にまさかの初戦敗退。チームは相当な危機感を持ちながら気を引き締めて今大会に臨むことであろう。得点源となるエースは**鈴木侑**。昨年10月 FIBA U-16 アジア選手権に出場し準優勝に貢献。6試合すべてに出場し29得点を記録した。大会で随所に見せた切れ味鋭いドライブはアジアでも十分通用することを証明した。球際にも強く、ここぞという大事な局面でシュートを決められるクラッチシューターでもある。今大会でもその素晴らしいプレーを存分に披露し、私たちを感動させてくれるであろう。鈴木とともに新チームを引っ張っていくのが**石牧葵**。粘り強いディフェンスと高確率で決まる3Pが持ち味でゴール下でも力強さを見せ攻撃の軸となっている。1年生ながらウインター県予選でもスタメン出場した**松岡木乃美**は強靱なフィジカルを誇り、体を張ったプレーでチームの勝利に貢献する。他にもウインター県予選や本戦でもシックスマンとして起用され自分の役割をきっちりとこなした**小幡桃花**やスピードあるプレーが魅力の県選抜選手・**伊藤綾優花**、そして昨年のウインター県予選準決勝で出場機会を得た**奈須梓咲**などが新チームの一翼を担い、連覇に向かい邁進していくであろう。持ち味のスピードを生かして相手のオフェンスに適応し、得点を最小限に抑えながら競り勝つ開誠館のバスケスタイルで一つ一つ勝利を積み重ねて欲しい。

開誠館を追うのはウインター県予選決勝で開誠館に敗れ雪辱を誓う市立沼津と中部新人覇者、3年ぶりの優勝を狙う常葉大常葉であろう。

市立沼津は前チームからの主力だった県選抜選手・杉浦と遠藤が残り、優勝を十分狙える戦力が整っている。**杉浦雅**は果敢にカットインする突進力が魅力、2年生になって最も伸びた選手である。172cm、インサイドの要・**遠藤真帆**は常にリバウンドに絡み得点を積み重ねていくセンスあふれるプレーヤーである。主将の上柳穂夏は小柄ながら飛び込みのリバウンドを積極的に見せ、コート上では常に声を出しチームメイトを鼓舞するチームの精神的支柱でもある。**古賀理紗**もゴール下で力を発揮するタイプ。昨年はインターハイ、ウインターカップ出場をあと一歩で逃した悔しい気持ちをバネに9年ぶりの優勝を勝ち取りたい。

常葉大常葉は一昨年度この大会で優勝を逃してから2年間、県内大会の優勝から遠ざかっており、賜杯奪還を目指し背水の陣でこの大会に臨む。1、2年生ともに実戦経験を豊富に積んだ選手を数多く擁し、優勝戦線に加わる。新主将となった**山地菜月**は粘りのあるディフェンスが強み。司令塔・**北村音緒**は切れ味鋭いドライブに加え、低い姿勢で相手にプレッシャーを与えるディフェンスは絶品である。1年生にも中部新人決勝・藤枝順心戦で3P3本を含むチーム最多の30得点を記録した**林美也子**はミニ・中学でも全国の檜舞台を経験、度胸あるプレーを見せる。U-16 日本代表候補にも選ばれた経験もある**保坂悠月**はスピードあるプレーで中部新人決勝では20得点を挙げた。その他**見崎菜摘**(2年)、**池田桃子**、**山口郁実**なども控え、優勝への戦力は整っている。

激戦の西部新人を制した浜松学院と中部新人2位の藤枝順心も3チームを追いかける。浜松学院は新チームで挑んだウィンター県予選でベスト16止まり、悔しい思いをした。その思いを胸に西部新人決勝では浜松市立を5点差で破り優勝を飾った。リバウンドやルーズボールへの反応が抜群の北川眞子、シューター・持原光里、村上愛佳、大怪我を乗り越え持ち前のスピードも戻りゴールを量産する加茂七華に加え、インサイドには175cm・佐藤佳乃や177cm・早崎琳里香など大型センターを擁する。チームが掲げる速いトランジションで走って守るバスケットのもと、2年ぶりの優勝を目指すためには東部2位の沼津中央または中部3位の駿河総合との対戦が予想されるブロック決勝での勝利が必須条件となる。

ウィンター県予選準決勝・市立沼津戦、残り30秒で逆転されて悔し涙を流した藤枝順心は、中部新人決勝では信条である「堅守速攻のバスケット」が十分に機能せず惜しくも常葉大常葉に敗れた。チームのポイントゲッター・内海遥はチーム一の長身・173cm。非常に器用な選手で内外から多彩なシュートを繰り出せる選手である。オフェンスリバウンドを始め、ゴール下のプレーに絶対の自信を持つ主将・駒形伊恭、リズムあるディフェンスを見せる滝澤有希、スペースを素早く見つけてドライブで切れ込むプレーを得意とする柴田珠里亜、中部新人決勝で途中出場ながらチーム最多の14点を挙げて孤軍奮闘した高橋香菜子などウィンター県予選3位のメンバーがほぼそのまま残っており、他チームにとっては脅威となるだろう。ブロック決勝で予想される浜松開誠館との戦いでは全身全霊で勝利を掴みにいくに違いない。

その他、各地区の上位チーム・浜松市立、西遠女子、駿河総合、静岡女子、沼津中央、三島北、沼津商業なども東海新人出場、そして優勝争いに加わる可能性は十分ある。そういう意味では今年は「群雄割拠」とも言えるかもしれない。注目選手である角本光、荒木柚衣、藤田みゆう(浜松市立)、石橋由衣、本橋成奈(西遠女子)、野村茉由、勝又亜梨沙、加茂恵(駿河総合)、鈴木好(静岡女子)、石井香帆(沼津中央)、山田幸(三島北)、法月己歩(沼津商業)などは是非決勝リーグでその華麗なプレーを見たいと思わせる一流の選手たちである。

今大会女子で唯一の初出場校が浜松大平台。創部12年目で悲願の初出場。前身の農業経営時代も果たせなかった夢をついに実現させた。平均身長158cmと決して高いチームではないが、日々練習に精進し、チームのモットーである「泥臭いバスケット」が浸透して初の県切符を勝ち取った。初戦は東部王者・市立沼津。非常に厳しい戦いになるであろうが、相手のペースに惑わされることなく、40分間自分たちのバスケットを貫き通して欲しい。